



校長室より



令和5年11月24日

No.17

**全日本小中学生ロボット選手権地区予選で準優勝！
ロボットプログラミング選手権 2023（病弱教育部門）
近畿・東海・北陸地区大会で第3位！
両大会 全国大会出場 おめでとう！**

11月11日（土）に、紀央館高校にて全日本小中学生ロボット選手権県日高地方ブロック予選が行われ、小学部児童の制作したロボットが、見事準優勝し、12月16日・17日に、御坊市で開催される全国大会に出場します。今回のテーマは「チェンジブロック」で、一段高い台に色違いで置かれているブロックを、同じ色の台上に乗せ換える課題で、ブロックの一面だけに色がついていて、色のついている面を上に行えば得点が加算されます。制限時間 2 分以内に四つの台上に同色のブロックを乗せられるかという設定でした。みはまのロボットは、独創的なスタイルで、操縦者の見事な操作力でブロックを運び、果敢に台上にアタックしていました。決勝も僅差の準優勝でしたので、この経験を全国大会につなげてほしいです。大会中も出場者同士でロボット談義するなど自然な交流ができています。は微笑ましいですね。



みはま支援学校では、総合的な探究の時間における講座の1つに、ロボットの製作とプログラミングの学習に取り組んでいる電子工作講座があります。11月14日（火）にロボットプログラミング選手権 2023 の地区大会が行われ、近畿・東海・北陸地区の病弱支援学校から本校からの2チームを含め、19チームが参加しました。みはま支援学校の「捕獲制限 B」チームは見事三位に入り、令和6年2月1日に行われる全国大会に出場が決定しました。ロボットプログラミング選手権は、プログラミングが入力されたロボット（プロロ）同士が相撲対決する競技で、土俵から相手のロボットを押し出した方が勝利となります。プログラミング教育では、ロボットを意図的に動かすために必要な論理的思考力が求められます。また、この大会を通し、普段は会えない全国の病弱支援学校の生徒とリモートで、時間や場所を共有することで、学ぶ楽しさ、人とつながることで得られる達成感やそこから得られる自己有用感を味わい、広い視野と広がる可能性を体感させてくれます。試合は、何度も膠着状態が続く白熱した戦いが続き、本校のリモート会場では一戦一戦に、大歓声があがりました。



